
ホモじゃないのに同級生と69した。

ろーさ

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホモじゃないのに同級生と恋した。

【著者名】

るーちゃん

N4865C

【あらすじ】

VIPで見つけたスレです。それを張り付けました。

夏の夜の空氣に、何かが狂つてしまつたんだ。思い出すと
「あああああああああ」つてなる。

今週の月曜～火曜にかけて、男友達3人で海に行つた。
その夜の話。

メンバーは…

・イケメン

180くらい細身筋肉質 バスケ部

アングロサクソンの血が混じつてんじゃないかとおもうような、外
人系美形。 見た目でモテてるが、本人の中身がやや田舎っぽく、
彼女できない。小学校からの友達。

・フツメン

170ないぐらい? 中肉中背 でもバスケ部

美形ではないが、愛嬌があつて女にも人気はある。
彼女は前いたはず。いいやつ。

・俺

177cm 85kg でもピザじゃなくゴリ ラグビー部
フツメンちょい下だと思うが、正直全然モテない。

3人で、安い民宿予約して一泊で海水浴。昼頃に着いて、日が暮れ

るまで海で遊んだ。風呂入つて、飯も食つて、さあ花火タイム。でも、さすがに男3人では寂しいから、女の子に声をかけて一緒にやろつといふ話になつた。

一応作戦としては、まず俺とフツメンが、声を掛け、立ち止まつてくれたらイケメンが現れて、一緒に花火する話をするといふプラン。

3人組にしほるとターゲットが狭くなるので、2人組みモノKということで慣れないナンパスタート。

民宿街には、短パンとかミニスカとか、とにかく露出しまくった女の子がすげーうろついてた。が、さすがにちょっと派手目の田立つ子は、かなりの確率で、ピアスしたDQNにいちゃん付き。こっちのびびりもあって、ターゲットは自然と、ややおとなしめの口になる。

「ねえねえーどこから来たのー?」できるだけ明るく声を掛ける。

が、全然場慣れしてない田舎の高校生がいくら頑張つたところで、全く相手にされない。

「熱っちいから。」とか、無視とかそんなんばっかり。

途中から、

「最初っからイケメン居たほうがいいだろ」と作戦変更し、3人で

「えかけたり、

「お前ちょっと隠れてる」と言われて、俺だけ隠れて他の2人で声かけたり色々やってみたけど全然だめだつたんだ。

で、結局2時間近くウロウロしても全然ダメで、その頃には、当初の目的の花火なんかどうでもよくなつて、夏の夜の濃密な空気と、自分達の行動、そして、相手にされなかつたとはい、露出の高い女の子何人にも声を掛けたという興奮で、もう、変に発情した状態になつて、じゃあ、女の子は無理っぽいから、部屋かえつてオナニーでもするかつてことになつた。

部屋に戻つた俺達、特に俺とイケメンくんが、ヘンなスイッチ入つてゐる。

いきなり、

「なあ、見せ合ひしようぜ。立つてる状態で」 つてなつた。

フツメンは、やや引きながらも、笑いながら

「たたねーよ!」 って言つて、しなびたちんぽ出した。

俺とイケメンは、ビンビンになつたちんこ見せあいして、

「お前のほうが太いな」 だの、

「でも長さは俺の方が」 だの、まだこのへんでは笑いながら言つた。

でもそのうち、俺が本気でオナニーしたくなつて、でもさすがに友達の前ではシコれないよなーと思い、布団を出して中が空になつた押入れに入つてやることにしたんだ。

んで、押入れに入つてシコシコやりはじめたら、なぜかとびらがスレーツとあいた。

「おい！開けるなよ！」って怒つたら、「いや、俺もオナリたくなつて、いいつしょ？暗いし」って、イケメンの声がした。

まあ、確かに真つ暗だからいいかと思つて、中に入れた。これが間違ひの元だつた…。

しばらく押入れの端と端で、シコつてたんだが、そのうちにイケメンが聞いてきた。

「なあ？女に触つてもらつたことつてある？..」

「ないよ。」

「どんな感じなのかな？」

「さあ？気持ちいいんじゃね？」ってな会話。

ちなみに、イケメンはイケメンでも、田舎の高校のかなり本気度高いバスケ部の部員で、全然女慣れしておらず、モテてるのにつまくもつていけずに、彼女居ない状態のやつだ。

そのときの妙な心理状態で、

「完全に隔離されたところじゃなくて…」みたいに思ったのかもな。

で、変に興奮していた俺も、触られる」とこすりく興味がわき、「じゃ、お互いに触つてみるか?」って、ドキドキだけ笑いのネタつぽく言つてみた。

イケメンは、

「わははー面白いなーせつてみる?」と、『れまたふざけてるのを装つて、でも明らかに興味津々なのが伝わつてくる感じで答えた。

んでだな、まあお互いに刺激しあつたりしまじめたわけだよ。あれ、相手が男でもびっくりするほど気持ちいいのな。

彼女居るやつは、女の子にこんなことしてもらつたのがよー信じらんねー!って感じで。

んで、興奮しまくつて理性を失つたイケメンが、
「なあ、フエラチオつしてもらつたことあるか?」って聞いてきた。

もちろんそんな経験ないからやつ答えると、

「男に興味あるわけじゃないけど……その……お互いにフェラチオしてみない?」って言われた。

イケメンにフェラチオを誘われた俺、実際俺も興奮して理性を失つてたし、押入れの中のむつとした空氣に一段と変な気持ちになつてたし、フェラチオの感触にも興味あつたから、

「お、おう。やってみるか?」って、これまたできるだけ余裕あつて笑いながらつてのを装いながら答えた。

まずは俺からイケメンのをくわえた。臭いかと思つてたのだが、極度に興奮してたのと、既に押入れの中で汗やらなんやら臭いこもりまくりの中にいたのと、そもそもラグビー部で、臭いに慣れてると、そんなのが幸いして、臭くはなかつた。

なんか、太い魚肉ソーセージつて感じ。でも表面はあんざいがりしてなくて、ぬるんとしてた。

くわえた瞬間とか、

「この辺が気持ちいいよな」って思つたとこなめたりすると、イケ

メンが

「はうっ…」って声出すのが面白かった。

でも、ちょっとしたら舐めるのも飽きて、それに自分のも早く舐めて欲しくて、交代してもらつた。

舐めてる間もビンビンの俺の汗）。汗は。おひどいヤバ

冷静になつた今も思つけど、彼女居るやつて、本当に女の子にあんなことしてもらつてるんだよな？信じられねえ！――――！

もう、この世のものは思えない快感に身をゆだねる俺。その朦朧とした意識の中で、更なる興味がわいた。

「なあ、男回士で69つてやつやつてみないか?」

「今度は俺が誘つた。イケメンももはや興奮しきつてゐるのか
「ここまでやつたら一緒」と思つてゐるのか、すぐさま
「ねえ。俺もやりたい」とのつてきた。

AVで好きなシチュで、男が社長とかで、机で取引先に電話とかしてて、まじめな話してるんだけど、机の下ではエロエロ秘書が…てのあるんだけど、なんかそれに近い感覚かも。

違う」とを一所懸命やつてゐるとき、「舐められたのひですよ」と氣持ちいい。

この場合、その

「違ひ」は「他のものと二瓶めひる」となんだがwww

で、5分も舐めあつてたかなあ……。

なんかもう完全に時間の感覚とか消えてて、ひたすら快感に身をゆだねる状態だつた。

正直、相手が男か女かなんて関係ない状態。

しばらくすると、今までオナニーでは味わったことのない射精感が
ちんこにあがつてきて、まず俺がイケメンの口の中に大量に発射し
た。

「うおふ！」

急に出されたイケメンは、さすがに面食らつたみたいで声にならない声を上げた。「おい！ いくらなんでもいきなり口に出すなよー。」とちよつと怒ってるイケメン。

でもそのあとすぐこ

「……俺もひやんといかせて、口元をあけてくれよ……／＼／＼／＼　って
ちょっと照れた口調で……ってなんでシンナレキヤリになつてんだよ

男の性として、IJの時点で急速に冷めていつてゐる俺の興奮。

しかし、そのまま冷静になってしまってやめてしまつては、さすがに義理が立たない。

などと、わけの分からぬ使命感に燃えた俺は、頑張ってイケメンのちんこをしゃぶり、ちゃんと射精まで導いた。

口の中に大量に出されたザーメンは、さすがに瞬間に吐き出した
けどな。

多分、押入れの床は、汗やカウパー や睡 やザーメンでえらいことになつてたと思う。

やがて一人とも荒かつた息も静まり、冷静になつてきて、無言で押入れから出た。

部屋では、フツメンが部屋の隅で布団にくるまり、本当に心底汚いものを見る目でこっちを見てた。

俺もイケメンも、我にかえってきて、やつてしまつたことの

「ああああああああああああああああ！」さに、地団太を踏みたい気分だった。

畳に突っ伏して、落ち込んで動けなくなつてゐるイケメン。

死んだ鯖みたいな目で俺達を交互に見てるフツメン。

その中で、かるべじてまだ冷静さを保つていては俺だつたと思つ。あくまでも、他の2人と比べての話だが。

「なあ。俺も今すぐ後悔してるけど、やつちやつたことは仕方ないんだし、別にこれで俺らがホモに田覗めたわけでもないんだし、このこと知つてるのはここにいる3人だけなんだし、なんとかフツメンに黙つてもらえばいいじゃん。な！頼むから黙つてくれよな！フツメン！」

「当たり前だろ！押し入れからペチやペチや聞こえてきて、オナろうとしたよ。でもすぐに、『これは男同士の出してる音なんだ』って思い直してやめたけどな。」とか、笑いでさうひと流す雰囲気に持つていってくれた。

「ま、俺ら若いから、ワケ分からん事してしまつこともあるよ。今日だつて、ちょっとしたタイミングで、俺とどっちかが入れ替わつてたかもしれないし。」つて感じで、忘れて明日は楽しく遊ぼうつて。めちゃいいやつだ。

「今日は若氣の至つ。忘れようぜ。」
「落ち込みまくつのイケメンにも、

「でも、気持ちはよかつたよな。いや、かといって男に走る事は絶対無いけど。」

つて2人で話しかけて、何とか重い空氣終了。もうかなり夜も更けてたし、普通に寝た。

んで次の日、本当に何もなかつたように海で遊びまくり、俺は浜で焼きすぎて真っ赤になつたり、イケメンとフツメンは2人で女子大生のお姉さんナンパして仲良くなつてたり、楽しく過ごした。

ちなみに俺はナンパ系メンバーから外れると言われて外されたのは内緒だ。

帰りの電車もすっげー普通で、むしろ早くも笑いのネタとして、

「お前、またへんなことすんなよ。」

「 し な よ 」

「あれ？俺はもう一回くらいなら

めでたしめでたし
..

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4865c/>

ホモじゃないのに同級生と69した。

2010年11月17日15時59分発行